VOLTCOMPANY.

成人向

コンジキミカン

ゆうき　みかん
結城　美柑

「ほら・・・リト、こっち見て」

「おわっ！み、美柑！？
お前なんてカッコしてんだっ」

「リトもいつまでも女の子が苦手
とか言ってたら彼女できないよ？」
「だから妹の私がちょっと耐性
つけてあげようかと思って」

ぷるんっ

チラリ

「ほら、これが女の子のあそこだよ」
美柑はそういうとパンツをずらし、
幼いたてすじをリトに見せつける。
「おわああっ！だ、ダメだ美柑！俺たちは兄妹なんだぞっ」

「ほーら…もっと近くで見てもいいよ？」

（ううっ…妹とは言えこんなの
見せられたら…マズイっ）

「あん…♥リトってば結構甘えんぼさんだったんだね…」

なでなで

（オレ…何やってるんだろ…でもおっぱい美味しいっ！！）

ちゅぱっ

ちゅぱっ

もみ、もみ、

「いいよリト…これから毎日リトにおっぱい吸わせてあげるね♥」

ビクッ

あっ リトっ…♥

んっ…♥

レロッ

レロッ

ふぁっ…ん

あんっ♥

「えへへ…こっちも見たいんでしょ？」
「なっ…お、オレは別に尻なんて…」

「ベッドの下に隠してる本、見ちゃったもーん」
「うっ…」

「自分の心に素直になった方がいいよ？」

プるんっ♡

ドキ

ドキ

「ほらっ！リトのだーいすきな
女の子のお・し・りっ♥」

プリンッ♡

ヒクヒクッ

「…っ！！！」

「い、いいんだな美柑っ…ホントに
イタズラしちゃうぞっ？」
「うん…いいよ。リトの好きな事して…」

「すげえ…これが美柑の肛門…」

ドキ
ドキ
ふぷっ
ハァ
ハァ
ピクン
んっ…

「こ、こんなの
いれちゃったりして…」

ニュプッ
ニュプッ
あっ…ん♥

はんっ♥
プル
プル
プル
ヌッ
ああんっ♥

「リトのおちんちん…こんなに
おっきくなるんだ…」
「こっちの面倒も私が見てあげるね　」

スッ

ぺろっ

ぺろっ

「おわっ！み、美柑！？」
「おまっ…いつの間にこんなの覚え…うおっ！」

ふぁっ…リトぉっ
前はダメっ…

ビクッ

ハァ ハァ

あ…んっ♥

ビクッ

はんっ♥

ちゅっ

ぷる

くちゅっ

ぷる

ちゅぱっ

ぬちゅっ

そっ…そこっ
いじっちゃダメぇっ

くりゅっ

くりゅっ

あんっ♥んっ♥
はあぁんっ♥

びくんっ
んあっくっ…ん♥
キリッ
「くうっ…美柑の中っ…きつくて…
気持ちいいっ！！」
「りっリトぉっ…リトのおちんちん
すごいよおっ…」
ヌプッ
ヌプッ
ヌプッ
んああっ♥
キリッ

「美柑っ、こっちも入れちゃうぞっ！」
「うんっ！いいよリトっ！お尻もしてっ♥」

ヌプッ
ヌプッ
ヌプッ
ヌプッ
プルンッ
ハッ
ハッ
あっ…
んっ…んっ♥

はんっ…♥リトぉっ
私のおしりに出してっ
ビクッ
ビクッ
ドピュッ
あっ・・・ん
ふぁあああんっ♥
ドピュッ
ドピュッ

「あん…あふれてきちゃった…♥」
「もーリトってば妹の中に思いっきり出しすぎだよ…」
「でもこれで自信ついたでしょ？」
「もしもまた自信なくなったらもっかいしてあげるから…ね♥」
ハァ
ハァ
ピュッ

あーーーーっ
リト！美柑！
ふたりとも
ずるーいっ！

私にナイショで
エッチしてっ！

あ…

じゃあ
ララさんも
一緒にしよっ

うんっ♥

ぱぁぁっ

ほーら
リトっ♥

みんなで
いーっぱい
エッチしよっ♥

もっ…

もう
勘弁してくれ～

END.

金色の闇（こんじきのやみ）

夜の校長室。金髪の美少女が
その白い素肌をさらし、小さな
下着に包まれた下半身をも
露出させている。

「くっ…体が…勝手に！？」
「貴方…いったい私に何を
したのですか」

「うほほほ！このララちゃんから失敬した
マイクで命令されると、誰もさからえない
んだよーん♪」

「さあヤミちゃん、キミは今からワシの
性奴隷として一生仕えるのです！」

「そっ…そんな馬鹿なこと…
私がするわけが…ないでしょう…」

「んん～？じゃあなんでスカートを
まくってパンツ見せちゃってるん
ですかね～？」
「くっ…」

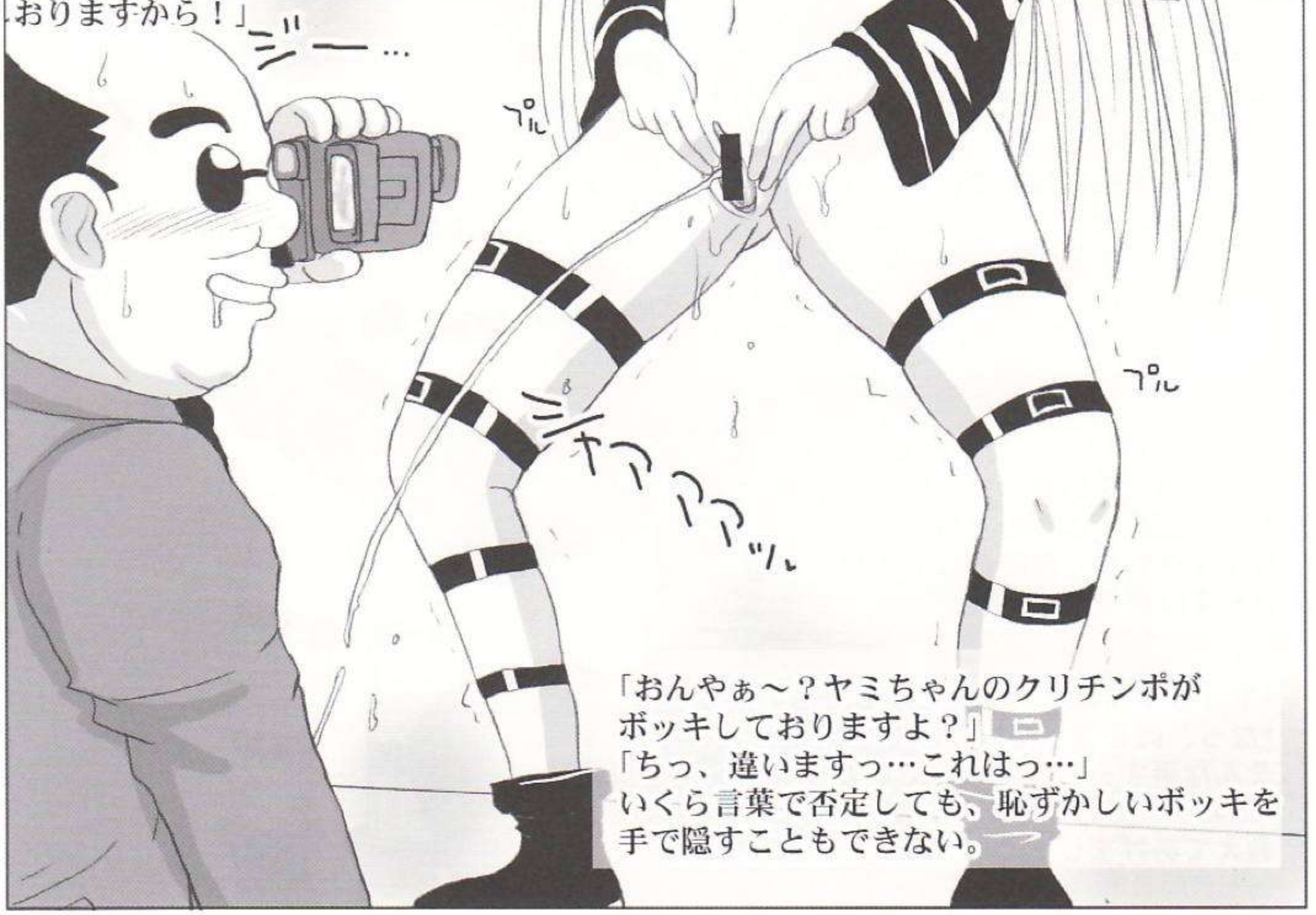
あっ…
ぺろ〜ん
スルッ
「さ〜てそれではヤミちゃんの
大事なところを見ちゃおっかなっ！」
そう言うと校長はヤミのパンツを
ずり下ろした。
ヤミのたてすじが校長の視線に
さらされる。
「うひょ〜♪つるつるぷにぷにですなあ」
「や、やめなさい…こんな事をして
良いと思っているのですか」
ヤミは抵抗しようとするが
なすすべもなく無防備な下半身を
さらすばかりだ。
「ヤミちゃんはオナニーとかしてるのかな〜？」
「なっ、何を言っているのですかっ！？
そんな事するわけがないでしょう！」
「ほお〜、それじゃあワシがオマンコの使い方を
教えてあげましょう☆」

「さーて、まずはオシッコの仕方から♪」
「そ、そんな事を教えてもらう必要はありません」

「いやいや、正しいやり方は
違うのですぞ～？
まず大きく足を開いて、次に
思い切りオマンコを両手で押し開きます」
「い…いやっ…」
ヤミの抵抗もむなしく、言われた通りの
ポーズをとってしまう。

「そして『私のオシッコ姿を見てください』
とお願いしてから勢いよく放尿しましょう！」

「っ…わ、私のっ…オシッコ姿…
み、み、見てっ！見てくださいっ！」
恥じらいで顔を真っ赤にした
ヤミの股間から黄金の液体がほとばしる。
「おお～っ！！よく出来ました！」
「ダメっ…見ないで下さいっ…」
「大丈夫！しっかり記録して
おりますから！」



「おんやぁ～？ヤミちゃんのクリチンポが
ボッキしておりますよ？」
「ちっ、違いますっ…これはっ…」
いくら言葉で否定しても、恥ずかしいボッキを
手で隠すこともできない。

んっ…く…
ヴヴヴ…
つんっ
つんっ
「上手にオシッコできたヤミちゃんに
ごほうびをあげないとネ☆」
「ほーら、このピンクローターで
ヤミちゃんのクリチンポを
いい子いい子してあげましょう」
「やっ…やめっ…はうんっ♥」
ヤミの敏感な突起にローターが
触れ、甘い振動を伝える。
初めての刺激に震えるヤミ。
意識せず、腰を突き出し快感を
より味わおうとしてしまう。
ビクッ
んんっ♥…
ふぁっ…
だ…め…♥
ピン
ピン
あっ…♥
んあああっ♥
ヴヴヴ…
ビュッ
ビュッ
ビュッ

「さあ、ワシの教えたとおり
やってみてごらん」
「あう…嫌なのに…こんな格好…」

パ

カッ

机の上でヤミは自分の足を大きく開き、
性器がよく見えるようにポーズをとる。

「さーてヤミちゃんはワシに一体
どうして欲しいのかなぁ～？？」

ドキ

ドキ

ぱぁ

わ、私の…オマンコに
おチンポはめて下さいっ

私の子宮にに
いっぱいチンポミルク
中出しして下さいっ

んあっ…♥
だめっ…
やめて下さ…
ビクッ
はんんっ…♥
んっ…♥
んっ…♥
ギシ
ギシ
ふぁあんっ…♥
ヌプッ
ヌプッ
ピュッ
ヌプッ
ヌプッ
暗い校長室に粘液質な音が響く。
「ほれっほれっ！初チンポの味はどうだっ！？」
ヤミの幼い肉壷に校長の剛直が遠慮なく
出入りする。
「あんっ…♥ふんんっ…♥」
ヤミは股間から突き上げる甘い快感に
抗うこともできず、夢中で嬌声をあげる。

ヤミの調教が始まって３日目。まだ心は抵抗を続けるが、体は逆らえない。

「ヤミちゃん、バナナは好きかな？」

「…バナナ？貴方は一体何を言っているのですか」

ドキ

ドキ

プリン

ヒクヒク

「さあ、こっちにお尻を向けて」
「あ…、な、何をするつもりですか？」
うっすらと嫌な予感を感じつつも命令に逆らえず肛門を見せるヤミ。

「ま、まさかそれを…」

ほい正解！

はんっ…♥ んっ…く…♥

ヌッムゥ…

プル

ピクッ

いただきまーす☆

そこっ…違っ…♥

ヌムム…♥

「おおっ！ヤミちゃんのケツマンコは
よく締まるっ！」
校長の肉棒がヤミの肛門を激しく
突き立てる。

ヌプッ

ヌプッ

ヌプッ

あっ…

んあっ♥

プルン

プルン

あっ♥

「ほれっ！イク時はちゃんと
言うんだぞっ」

あんっ…♥あっ…♥
やっ…ん…♥

ビクッ

ビクッ

ドピュッ

ドピュッ

ドピュッ

おっお尻で…
お尻でイキますっ…
んっくぅううっ♥

ヤミの調教が始まって1ヶ月が経過した。
すっかりチンポの味を教え込まれたヤミは
校長の言う事を素直に聞くようになっていた。

「さ～ヤミちゃんの大好きなおチンポタイム
ですよ～♪」
「たっぷりペロペロしていいからね」

ドキッ

ボロンッ

ホカ

ホカ

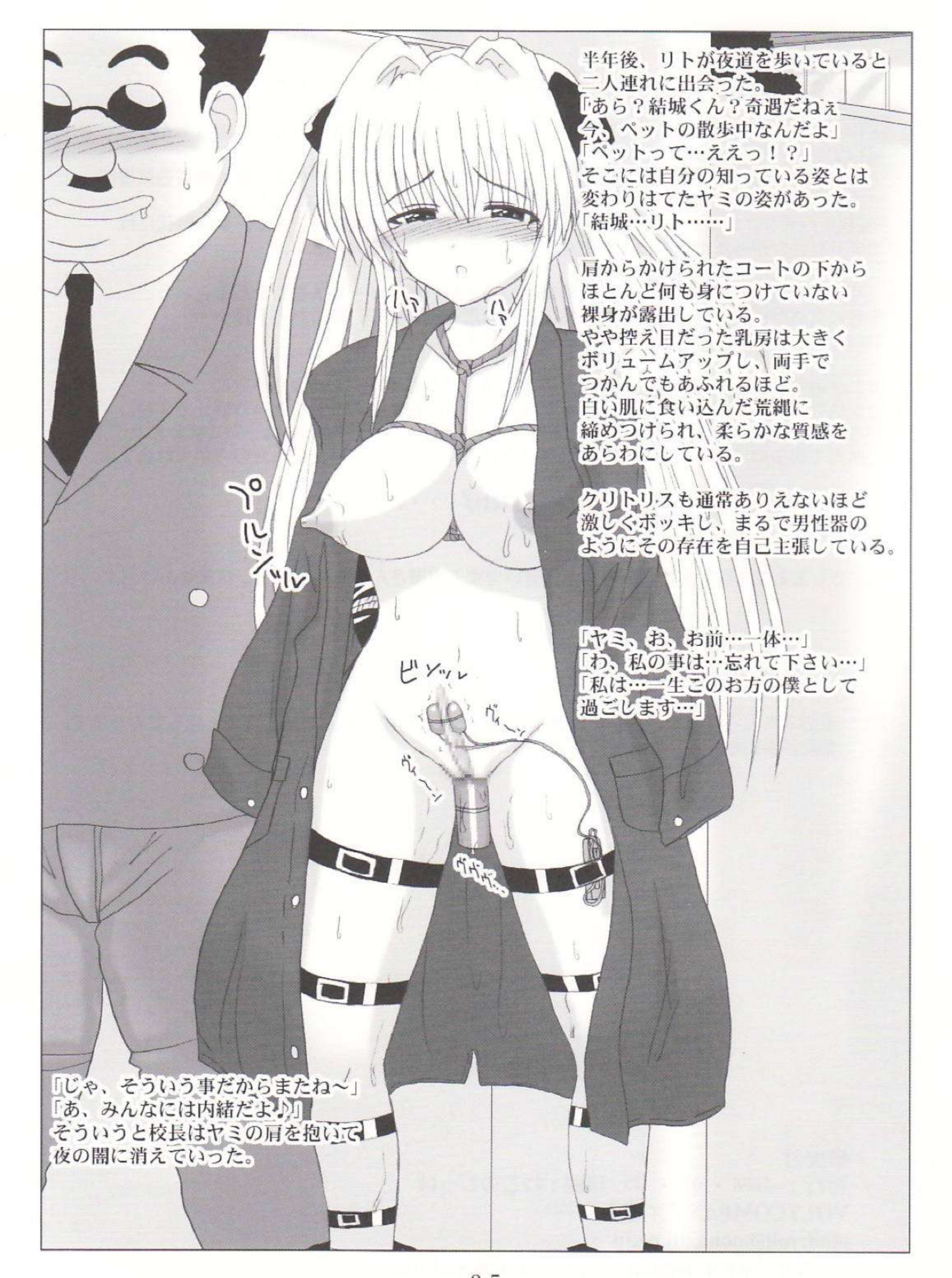
ヤミの目の前に校長の男性器が差し出される。
「あっ……は、はい…」
ヤミは匂いたつその肉棒から目をそらせない。
最初は不快だったそのニオイにもすっかり慣れ
パブロフの犬のように、そのニオイを嗅ぐだけ
で唾液が口の中にあふれてくる。

「はむ…♥んむ…♥んっ…♥」
夢中で校長のチンポをしゃぶるヤミ。
毎日たっぷり1時間はこれを続けさせられる。
「う～ん、ヤミちゃんもずいぶんフェラが
上手になったねえ～」

「はひ…♥あ、ありがとうございます♥」
「んむっ…♥んっ…♥ご、ご主人さまの
おチンポとっても美味しいです…♥」

股間の前と後ろの両穴にバイブを
くわえこみ、恍惚とした表情を浮かべる。

校長室の床に転がされたヤミ。
視覚を奪われ、自由をも制限され
ただひたすらバイブの伝える甘い
刺激のみを味わいつづける。
ビクッ
ビクッ
はっう……♥
あひ……♥
あんっ……♥
ガガガ…
ガィーン
ガィーン
「んじゃヤミちゃん、ワシちょっと
仕事いってくるからその間
そのままでいい子にしてるんだよ～♪
じゃ、いってきま～す☆」


半年後、リトが夜道を歩いていると
二人連れに出会った。
「あら？結城くん？奇遇だねぇ
今、ペットの散歩中なんだよ」
「ペットって…ええっ！？」
そこには自分の知っている姿とは
変わりはてたヤミの姿があった。
「結城…リト……」
肩からかけられたコートの下から
ほとんど何も身につけていない
裸身が露出している。
やや控え目だった乳房は大きく
ボリュームアップし、両手で
つかんでもあふれるほど。
白い肌に食い込んだ荒縄に
締めつけられ、柔らかな質感を
あらわにしている。
クリトリスも通常ありえないほど
激しくボッキし、まるで男性器の
ようにその存在を自己主張している。
プルンッル
「ヤミ、お、お前…一体…」
「わ、私の事は…忘れて下さい…」
「私は…一生このお方の僕として
過ごします…」
ビッッル
ヴィーン
ヴィーン
「じゃ、そういう事だからまたね～」
「あ、みんなには内緒だよ♪」
そういうと校長はヤミの肩を抱いて
夜の闇に消えていった。

■あとがき■

※このあとヤミはスタッフが校長の元から救出し、おいしく頂きました。

という事でこんにちは！旭丸です！今回はＴｏｌｏｖｅるのヤミちゃんと美柑ちゃんを
描いて見ましたがいかがでしたでしょうか？
アニメもはじまってますます絶好調のとらぶるですが、私はこの手の少年誌連載お色気漫画
が大好きです。「いけないルナ先生」「やるっきゃ騎士」「どっきりエンジェル」
「虹色ＴＯＷＮ」「ＯＨ！透明人間」などなど、あげればキリがないですが、少年時代には
あまり買えなかったその手の漫画を今になって集めたりしております。

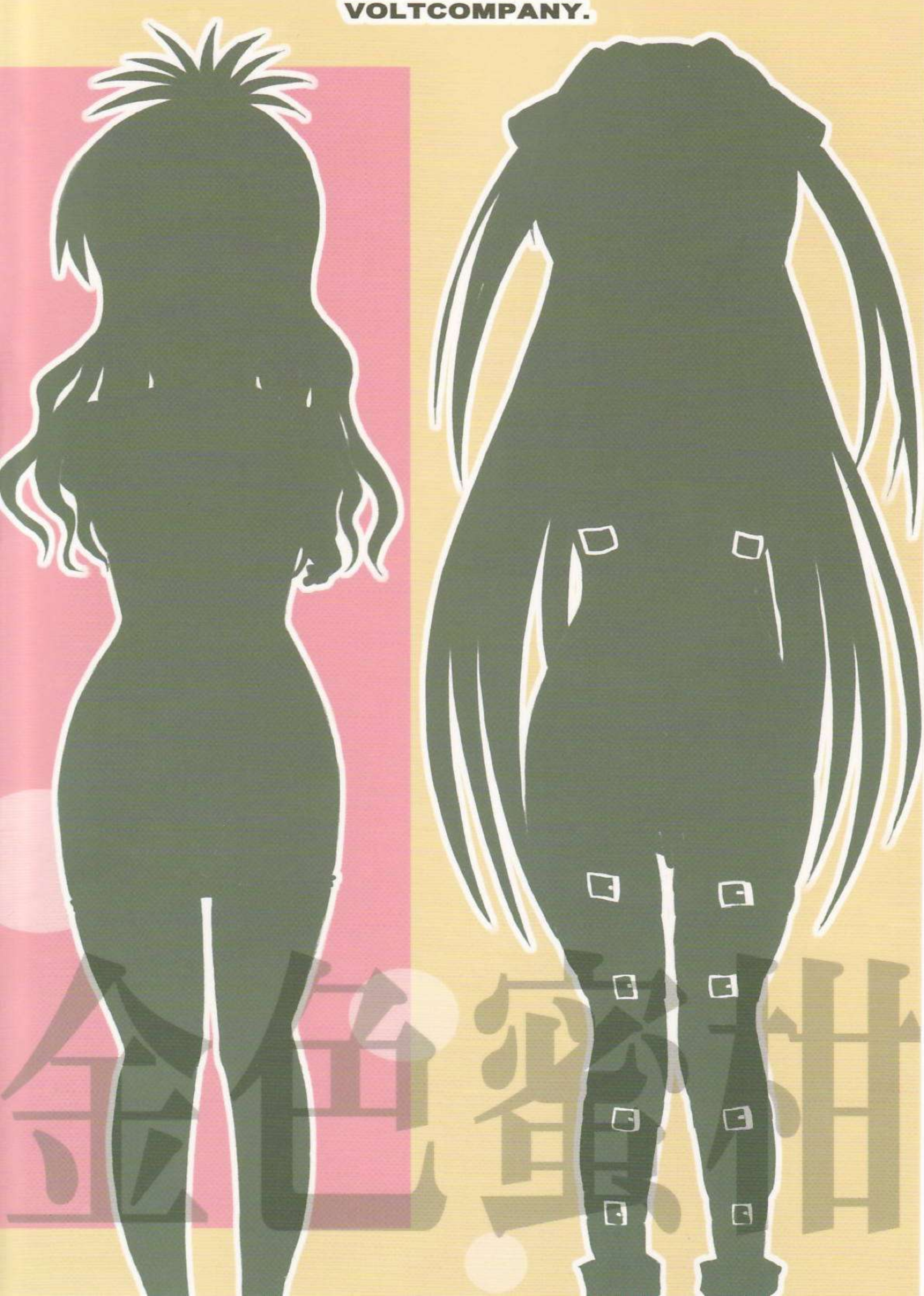
とらぶるも週刊少年ジャンプという枠組みの中で精一杯のサービスをしよう！という
作者の気概が感じられて大変好感のもてる漫画だと思います。私のハートは
いいぞもっとやれ、という気持ちでいっぱいです。

アニメの方はがんばってはいると思うのですが、どうもオリジナル展開部分に
センスの古さがめだつというか、ギャグはいいからお色気をもっと！という感じですね。
別に30分全部美柑とヤミの入浴シーンでキャッキャウフフとかでも私は一向に構わんッ！！
と断言できるのですが。どうですかスタッフの人。きっとＤＶＤもそっちの方が売れますよ。

それが無理なら普通に原作どおりやってくれれば・・・。ええ。

あ、でも天条院沙姫はアニメ版の方が可愛いです！声優さんのおかげかもしれませんけど！

さて、次の本もとらぶるで、ツンデレ風紀委員こと古手川唯ちゃんを描こうかと思っております。
あと天条院沙希姫も少し。そんな感じで、ではまた！

■奥付
発行： 2008・07・25 印刷：ねこのしっぽ
VOLTCOMPANY／旭丸
mail:volt@nona.dti.ne.jp
HP:http://www.nona.dti.ne.jp/^volt/index2.html
「深海６００００」

VOLTCOMPANY.